

南丹発 “SDGs パーソン” 育成プランの提案



南丹広域振興局

企画総務部企画振興室

南丹保健所環境衛生室

府民環境部エネルギー政策課

京都丹波スマート環境教育推進プラットフォーム

後見人部局：府民環境部、教育委員会



SDGsパーソンオリジナルキャラクター



京都丹波スマート環境教育推進プラットフォーム構成員

- 委員：京都大学地球環境学堂 浅利准教授
京都先端科学大学バイオ環境学部 丹羽准教授
京都大学地球環境学堂 ロジャー・バーズ講師
- メンバー：(株)京都環境保全公社、京都府地球温暖化防止活動推進センター、田中環境カウンセラー（環境省認定・登録）、雪印メグミルク(株)京都工場、ニチコン亀岡(株)、シヤトコ(株)八木地区
亀岡市教育委員会、南丹市教育委員会、
京丹波町教育委員会、南丹教育局
(R1.10.10現在)

目次

- ① SDGsとは？
SDGsパーソン育成に取り組む意義
- ② 南丹地域における環境学習の取り組み
- ③ 研究内容
- ④ 知事への提案



① SDGsとは？ SDGsパーソン育成に取り組む意義



SDGs(持続可能な開発目標)って何？

2015年9月の国連サミットで“我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ”が全会一致で採択。

2030アジェンダに掲げられたSDGsとは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標であり成長戦略



普遍性

先進国を含め全ての国
が行動

包摂性

人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型

全てのステークホルダー
が役割を

統合性

社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性

定期的にフォローアップ

(出典: 外務省ホームページ)

SDGsパーソン育成に取り組む意義

“京都から、SDGs実現に果敢に挑戦し世界に夢のある新しい社会インパクトを創出するリーダーを輩出する”



SDGsパーソンとは、SDGs達成に向けた行動を行い、普及啓発を行う人材

← 環境学習に参加した小学生が考えたオリジナルキャラクター

本研究の目的

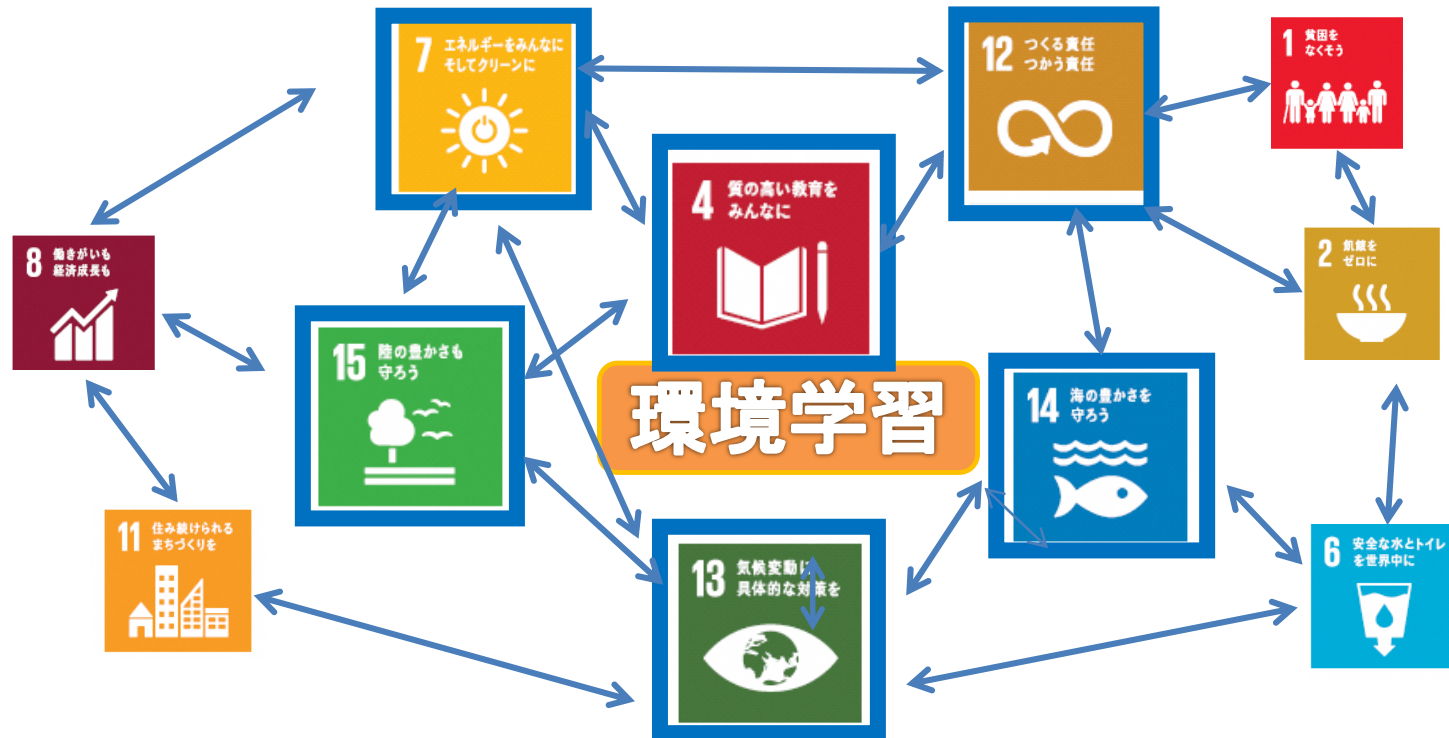


環境学習を入口にして
京都府全域でSDGsパーソンを育成

環境学習を入口にするワケ

- SDGsは体験型環境学習の中で学ぶのが効果的
- 自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心等を育む
- 考えを行動に変える人材の育成
- 身近な環境を入口にして他分野への関心も深めることが可能

SDGsと環境学習との関係



環境学習でSDGsが生み出す価値

- ①環境価値・・・環境維持・向上、環境負荷抑制
- ②社会的価値・・・持続可能な社会の担い手の輩出
- ③経済的価値・・・地域アイデンティティー、魅力向上

SDGsパーソンを育成すると・・・

気候変動は、地球と将来の世代をリスクにさらしている

地球規模の課題への対応

京都議定書

パリ協定の目標達成に向けた具体的なアクションが必要

地域の課題

- 持続可能な社会的安定
- 経済的豊かさの維持発展

SDGsのビジョン

- 平和と豊かさを広げ
- 数十億人に新しい機会を与える
- 大きな潜在性を備えている

この課題に挑戦するリーダーの輩出は
社会と世界経済に対する大きな貢献

このビジョンを担うリーダーを何人輩出できるかが、地域の維持発展のポイント

SDGsの達成に大きく寄与・将来の国力にも大きな影響

② 南丹地域における 環境学習の取り組み



◆京都丹波スマート環境教育推進プラットフォームの支援により、 ICTを活用した体験型環境学習

未来っ子環境スクール(出前授業) (平成18年度～)

- ・年15校程度の小学校が活用
テーマ: SDGs、地球温暖化、水生生物調査、植物調査、工場見学

京都丹波スマート環境学習(イベント形式環境学習) (平成30年度～)

- ・小学4～6年生を対象に、夏休み期間に体験型のプログラムを実施
今年度は全3回開催し、延べ69名の児童が参加



➡ 南丹地域ではSDGsパーソンを育成中

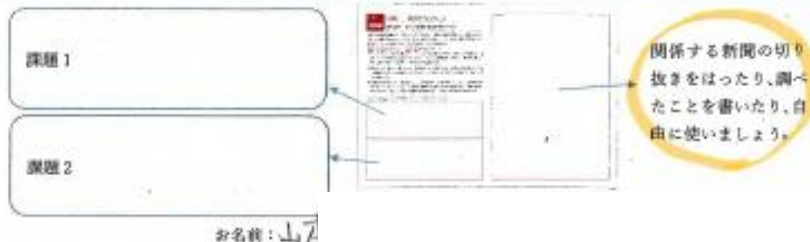
学習ツール①

SDGsノート



ノート記載にあたっての注意点

- 何かを書いたときは、必ず日付も書いてください。新聞の切り抜きを貼り付けたときや、誰かから話を聞いたときなども、日付を書いておいてください。
(例) 9/4 今日から、食べ残しゼロを始めました。9/5 早くも残してしまいました・・・
- 目標の順番に記載していく必要はありません。やりやすい行動からクリアしていったり、難しい行動から挑戦していったり、一通り行動してみたり、自分のスタイルで取り組んでみてください。
- どうしても解決のための行動ができないものについては、その目標について調べてみたり、考えてみたりした内容を書いても良いです。
- 行動してみても疑問に思ったことなども、メモしておきましょう。
- 正解は1つではありません。他の人が考えないような、ユニークな行動も考えてみましょう！



※ 京都大学浅利准教授考案、作成

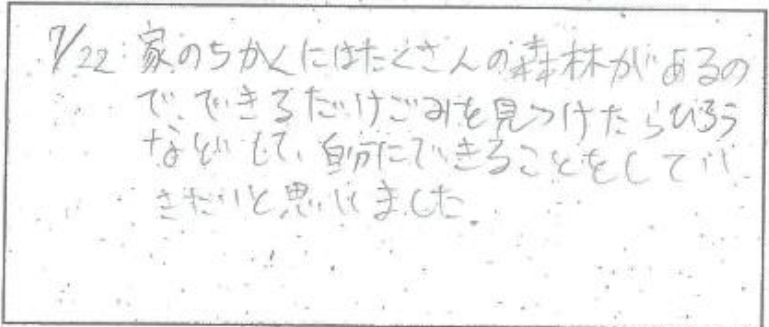


目標15 陸のいのちを守ること

陸のエコシステム(生態系。自然の生き物と、生き物が暮らす環境とが、バランス良くなりたっている仕組み)を守り、再生し、持続可能な方法で利用する。森林をきちんと管理し、砂漠がこれ以上増えないようにし、土地が悪くなることを止めて再生させ、生物多様性(たくさんの種類の生き物が複雑に関わり合い、様々な環境に合わせて生きていること)が失われることを防ぐ

目標15を達成するために、世界の国々が合意したこと

- ★国際条約(国と国との間の約束)にしたがって、砂漠や熱帯雨林(赤道の近く、主に気温が高くて雨がたくさん降る地域にある森林。ジャングル)などのエコシステムを守ります。
- ★森林を再生させることを目指して、森林破壊を減らし、木を植えます。
- ★絶滅危惧種を一刻も早く保護します。保護の対象となっている動物や植物を違法(法律に反する)にとったり、売ったりすることを止めます。先住民(その土地や地域にもとから住んでいた人々)の人たちと協力します。



学習ツール② SDGsワークシート「私たちにできること」

No. _____ 名前 _____ 学校 _____	 募金をする 食べ残しを減らす	 食べ物を買うときにい る量だけ買い、それ 以上は買わない。	 しっかりと 病気をかせ を防げるようにし がける。	 SDGsの目標 をたくさんの 人に知ってもらふ
 異性の悪 口を言わな いよつにする	 水を流す とき、自然に えいきょうがあるも のを流さないよう にする。	 節電・節水な ど、自分にでき る省エネをする。	 モノを買った ら、しっかりと 大切に最後まで使 いきる。	SDGsの目標を たくさんの人 に知ってもらふ
 みんなのこ 事はみんな てやる	 移動するとき にはバスや電車 などの公共交通機 関を利用する。	 3Rを心が けて、ごみを 減らすことを意識 する。必要なもの だけを買う。	 温室効果果 スを減らすた めに節電節水を心 がける。	 ごみとなる ビニールなど のプラスチック製品 を減らす。川をき れいにする
 落ちてい るご みを拾ったり 地域の清そう活動 に参加したりする。 糸色	 日常生活の 中で暴力・暴言 があつたらしく められるように する。	 みんなでカ を含めせる ふたつから自分 にできることをする	ごみとなるビ ニールなどの プラスチック製 品を減らす。	 かはん 入っていた プラスチック製品 22個 減らせる量 4個

学習ツール③ SDGsカルタ

- 「SDGs達成のためにできること」を読み札に、「SDGs17個の目標」を取り札にしたオリジナルカルタ
- 読み札と取ったカルタの目標との関係を発表

ex.リサイクルしたトイレットペーパーを使う



- ⑮森の豊かさを守ろう
- ⑫つくる責任使う責任
- ⑪住み続けられるまちづくりを



※ 南丹保健所考案、作成

ICTの活用

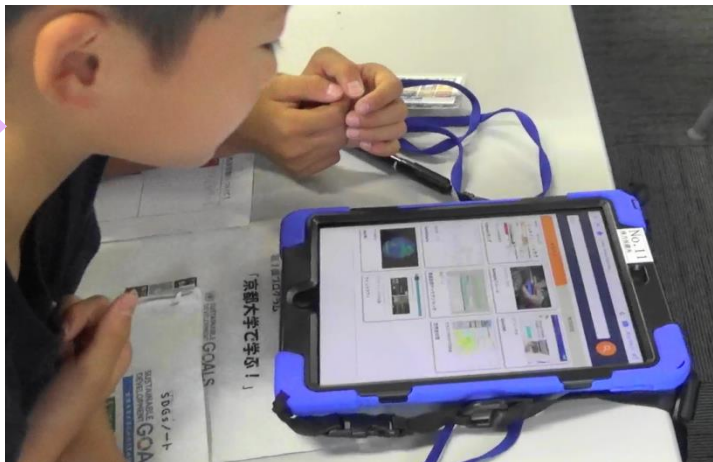


測定データをICT機器
(タブレット)に入力



タブレットで情報共有

タブレットで
情報検索



③ 研究内容



研究の要素

番号	研究要素	内容
①	研究支援	京都丹波スマート環境教育推進プラットフォームでの検討 (検討会、振り返り会議)
②	先進地調査	「2018年度SDGs未来都市」の神奈川県視察
③		京都市立安朱小学校の取組み調査
④		中央環境審議会委員 棚橋先生へのヒアリング
⑤	府域への拡大検討	府教育委員会へのヒアリング
⑥	プロフェッショナル支援	グリーンスポーツアライアンスジャパン 澤田氏との面談
⑦	職員養成	SDGsシンポジウム、研修への参加
⑧	企業と環境学習 (試行)	協働プログラムの開催(CSR活動とSDGs) ・ジャトコ株式会社八木地区 ・雪印メグミルク株式会社京都工場

① プラットホームでの検討

◆検討会の開催（R1.5.24）

研究の進め方への意見



①SDGsを子どもに伝えていくのは重要

②SDGs未来都市※の政策を参考にしているかどうか。

※内閣府が全国でSDGs達成に向けた優れた取組を行う29自治体をSDGs未来都市として選定。

③京都市では安朱小学校でのSDGsの取組みをモデルに市域全体に展開する方法も検討している。

④京都府はあまりSDGsに関する施策がないように感じる。

➡ ①,②,③を研究要素に加え研究を充実

◆政策提案に関する意見照会（R1.9.27～10.2）→意見を反映

◆振り返り会議の開催（R1.10.9）

②「2018年度SDGs未来都市」神奈川県先進地視察

選定された未来都市の中で、唯一の広域行政

★環境科学センター

- ・ 年5回連続のリーダー養成講座で指導者を育成
- ・ 指導者の登録制度をマネジメント
※課題は指導者の高齢化



★環境計画課

- ・ 企業、NPOからの講師派遣による出前授業
- ・ バナー広告収入、企業寄付により運営

★SDGs推進課

- ・ 総合計画をSDGsの観点から策定
- ・ イベント、冊子の作成による普及啓発



➡ **これらの先進事例を府の施策に取り入れてみたい。**

③ 京都市立安朱小学校の取組み調査

・5年生の総合学習で1年間ESD※やSDGsに取り組み、地域の課題を見つけ、改善のための提案を行う。※持続可能な開発のための教育

・・・地域のSDGsマップを作成し、地域へ発信

・6年生に進級したら、新5年生にSDGsを教える

・大学、高校、役所、自治会等からなるコンソーシアムが支援



持続可能な推進体制の下、実施している

④ 中央環境審議会委員棚橋先生へのヒアリング

※環境教育研究の第一人者

- ・学習指導要領を利用し、他の単元とのつながりを示すのが効果的
- ・小学校に広める際の工夫として、探求学習※の授業パッケージを提案してはどうか。

※児童が主体となり、①問題をとらえ、②計画を立て、③結果をまとめ、④発表し、⑤アクションを起こす

⑤ 府教育委員会へのヒアリング

- ・ありふれた提案が多い中、地域密着型の学習プログラムは強みとなる。
- ・取り組んだ学習の成果を目に見える形とし(学校の表彰等)、学校側のメリットをアピールできれば需要はある。

⑥ グリーンスポーツアライアンスジャパン澤田氏との面談

- ・SDGsを基軸に新しい事業、新しいつながり、新しい展開を生み出すことこそSDGsの意義かと思う。
- ・勉強しつつ、学校の宣伝もでき、経費の削減にもつながる等一石三鳥、四鳥となる提案を学校に行うことが重要
- ・米国の成功事例→スポーツと環境学習を絡める→南丹は京都スタジアムを活用してはどうか

 学校現場の実態を知ることができ、政策提案の内容に反映したい意見を聞くことができた。

⑦-1 SDGsシンポジウム（京都大学）

- SDGs達成に向けた取組が企業等にとって無視できない。
- ESGの明文化や可視化が企業価値になり、
環境(environment)、社会(social)、企業統治(governance)
に配慮している企業が重視・選別され、投資へも影響

※ 企業がSDGsやESGに取り組むことは、企業側に大きなメリットをもたらす時代に。

 自治体も、SDGs達成に向けた取組が無視できない状況になっているのではないか。

⑦-2 SDGsカードゲーム研修（2030 SDGs）

・2030年の世界がどうなっているのかをシミュレーションするゲーム。

※ ゲームを通して、**自分の起こす行動と世界の状況（経済、環境、社会）とのつながり**を実感

※ 一人一人の行動がSDGs達成につながる。些細なことでも行動に移すということの重要性を認識



➡ **SDGsの基礎学習に最適。職員研修のツールとして有効**

⑧企業との協働プログラムの開催(CSR活動とSDGs)

- 企業との協働により、管内の小学生向けの工業見学プログラムを開催（小学生4～6年生19名参加）
- 企業における環境及びSDGsの取組について学び、プログラムを通して、参加した子どもたちがSDGs達成に向けて自分たちに何ができるかを考える。

協働企業

➤ ジヤトコ株式会社八木地区
自動車変速機メーカー

➤ 雪印メグミルク株式会社京都工場

参加した子どもたちの感想

- ・環境をよくするために色々な人たちが協力しているんだなと思った。
- ・SDGsやリサイクルで自分たちにもできることがあると分かってできることはやってみようと思う。

参加した子どもの親御さんの感想

- ・楽しかったようで、家に帰って「SDGsとは..」と語ってくれました。



➡ SDGsは身近なことからグローバルな問題まで幅広く考えることができ、児童との親和性が高い。

④ 知事への提案



提案したい政策



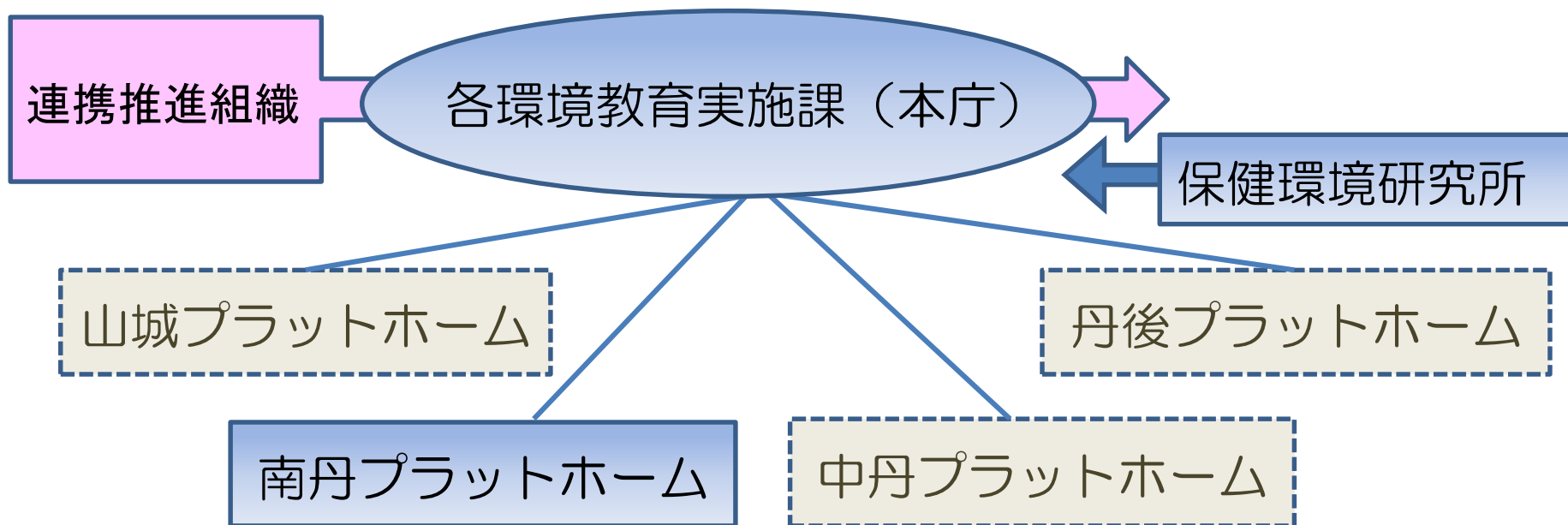
SDGsパーソン育成のために・・・

- ① SDGsパーソン育成タスクフォース
- ② 持続可能な事業モデルの構築

① SDGsパーソン育成タスクフォース（1/2）

環境学習を実施する本庁各課を、

SDGsをテーマに横串を通して連携させる推進組織を設置



① SDGsパーソン育成タスクフォース（2/2）

京都府

本庁

- ・環境学習インストラクター制度の運営
- ・環境学習の一元化
- ・地域間の授業プログラム交流
- ・戦略的広報

各プラットフォーム

- ・南丹のプログラムをベースに環境学習を推進
- ・地域特色を活かした学習プログラム作成、実施
(例: 地域SDGsマップ作成⇒まちづくりへも反映)

SDGs普及

児童
(府民)
市町村
事業者

② 持続可能な事業モデルの構築 (1/2)

地元のシンボルで環境学習実施

集客力

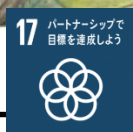
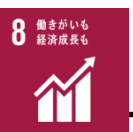
発信力

話題性

南丹地域であれば

京都スタジアム

2020年オープン



環境学習プログラムでwin-winに！



② 持続可能な事業モデルの構築（2/2）

★スタジアムのイベントとタッグ

ターゲット

南丹・京都地域を中心とした子ども達



スタジアムに来た子どもから大人へ



例えば・・・

京都サンガF.C.



府プラット
ホーム

地元企業

- ・試合前に参加企業等の
環境学習プログラムの提供
（環境やSDGsへの取組み）
⇒子ども達が楽しみながら学習
- ・SDGsコラボグッズの作成、収益
の一部を環境学習の資金源に
⇒持続可能な環境学習
- ・電光掲示板等を活用しSDGsをPR
**⇒来場者へのSDGsの普及
企業のPR、CSR活動にも**

政策が進んでいくと…

地域

- ・観光客の増加
- ・地域間パートナーシップ
- ・地域の活性化

環境価値

環境

- ・環境維持・向上
- ・環境負荷抑制

社会的価値

教育

- ・SDGsパーソン育成
- ・持続可能な教育
- ・リーダーの輩出

経済的価値

企業

- ・ビジネスチャンス
- ・CSR活動の推進
- ・企業PR



- ・多くの人に普及、啓発 ⇒ SDGsパーソンが激増
- ・SDGsパーソンが目標達成に向けて行動



一石四鳥の真のSDGs達成プロジェクト

ロードマップ

提案		R1(下半期) [2019]	R2 [2020]	R3 [2021]
①SDGsパーソン育成タスクフォース				
本庁		・環境教育実施課との調整 →連携組織立ち上げ	・環境学習インストラクター制度 ・地域間交流	
各プラットフォーム		・各振興局及び各教育局との調整 ・各市町村校長会でのPR	・プラットフォーム立ち上げ ・環境学習を実施 ・SDGs普及策の更なる検討、実施	
				・独自プログラム実施 ・SDGs新普及策を実施
②持続可能な事業モデルの構築				
南丹プラットフォーム		京都サンガFC、京都スタジアム、地元企業等と調整	京都スタジアムを舞台にイベント＋環境学習を実施	京都スタジアムでの事業が定着
他のプラットフォーム		—	シンボル施設及び地元企業等と調整	シンボル施設でイベント開催

31

ご清聴ありがとうございました。